

答 辞

寒さが和らぎ、つばみがつき始めた校庭の桜に、春の訪れを感じます。本日は、このように多数のご臨席を賜り、盛大な卒業証書授与式を挙行していただきましたことに、卒業生を代表して厚くお礼申し上げます。

真新しい制服に身を包み、決意と期待を胸に校門をくぐったあの日から三年。振り返ると、長いように思えた三年間は、あっという間に過ぎて行きました。眠気と戦った毎日の朝補習。仲間と切磋琢磨しあった部活動。アイデアを出し合い、クラスで一致団結した文化祭。暑い中、毎日練習し、皆で盛り上がった体育祭。初めてのスキーに夢中になった修学旅行。

そして、壱岐高校の歴史と伝統を改めて感じさせられた、創立百周年記念事業。

その中でも印象に残っているのは、一昨年の秋に行われたパネルディスカッションです。本校を卒業された先輩方と現壱岐高生が、「壱岐高校の百年と二十一世紀における壱岐高校の役割」をテーマに討議しました。様々な世代の先輩方が、高校生だった頃の思い出を交えながら、意見を述べられました。討議の中で、「今の壱岐高生の印象はどうですか」という質問がされたとき、先輩方は詰まることなく答えられました。その様子を見て、先輩方が普段どれほど後輩である私たちのことを気にかけてくださっているのかが分かり、私は胸が熱くなる思いでした。そして同時に、先輩方の壱岐高校に対する強い思い入れを感じる事ができました。最後に、元PTA会長の坂本さんのこの言葉でディスカッションは締めくくられました。「高校時代に得意な分野や能力を発見し、学友と切磋琢磨することで自分を磨き、卒業後は社会で活躍してほしい」皆さんは、この言葉をどのように受け止めたでしょうか。

また、記念事業で盛り上がりを見せたのは、何と云っても百周年記念文化祭です。記念文化祭ということで、二日間にわたって開催され、一日目には九州電力元副社長豊島令隆さんによる講演会と壱岐高校の生徒代表による弁論大会、二日目には各クラス、文化部による展示やステージ発表が行われました。豊島さんの講演会やオープニングとエンディングで上映されたムービーでは、昔の壱岐や壱岐高校の写真が映し出され、初めて見る昔の壱岐高校の姿に、百年という長い歴史と伝統を感じる事ができました。

私自身、身をもって壱岐高校の歴史を感じた出来事がありました。文化祭当日、私は生徒玄関で来場された方のご案内をする係をしていました。その時に、「壱岐高も変わったね」と声をかけてくださった方がいらつしゃいました。その方は壱岐高校が女学校だったときの生徒で、百周年ということ、何十年ぶりに壱岐高校に来たのだと話して下さいました。このように昔の壱岐高校を知る方と直接お話ができたのは、百周年を記念する文化祭だったからこそでしょう。壱岐の町並みも、壱岐高校も時が経てば変わります。し

かし、これまで受け継がれてきた伝統は変わることはありません。これからは、私たち自身が吉岐高校の伝統を継承し、発展させていかなければならぬのです。

在校生の皆さん、高校生活は充実していますか。充実しているという人もいれば、そうではないという人もいるでしょう。残りの高校生活を送られる皆さんに私が伝えたいこと。それは、いろいろなこと、積極的に挑戦してほしいということ。経験を通して、人は初めていろいろなことを学ぶことができます。そして、成長につながる志や目的をもつきっかけにもなるのです。

私自身、多くのことを学んだ生徒会活動。これまでにない二十人という大所帯での活動は想像以上に大変なものでした。一人一人の「吉岐高校をもっと活気ある学校にしたい」という重いが強く、どの行事も常にこれまで以上の成果を目指して活動していました。生徒会活動で特に印象に残っているのは、生徒会が毎年発行している、生徒会誌「雪洲」の作成です。今まで以上に、読んで楽しんでもらえるような「雪洲」にしようと、アイデアを出し合い、構図や写真の貼り方など、創意工夫を重ねました。内容が濃くなった分、仕事量は当然増え、終わりの見えない作業が続く毎日。意見の食い違いから、思うように作業が進まないときもありました。一年生の時からすでに生徒会に入っていた人からは、「人数も増えて、皆働き者だけど、仕事量は倍以上になった」と言われる程でした。それでも、全てをやり遂げ、完成した「雪洲」を見たときの達成感と喜びは、今でも忘れることができません。私はこの活動を通して、自身の学びたいことを見つけ、悩んでいた進路を決めることができました。そして、改めて仲間と協力することの大切さを知るとともに、このように学校のために一生懸命頑張れる友人たちと共に活動できたことを誇りに感じています。

「志ある者は、事、竟になる」という言葉があります。確固たる志を持つ者は、どんな困難に遭遇しても、くじけることなく事を成し遂げることができるとい意味です。たとえ小さな目標でも、達成すれば自分の力となり、自信へとつながるはず。だからこそ、今出来ることに精一杯取り組んでみて下さい。高校生活でしか得られないことはたくさんあります。卒業の日を思っている以上に早く訪れるものです。在校生の皆さん、どうか、一日一日を大切に過ごしていただく下さい。

さて、これから私たちが進む道は、決して楽なものではありません。変動する政治、多発する社会問題。揺れる社会情勢に不安を募らせる人も多いと思います。しかし私たちが進む道は、高校生活の延長線にあるものだと、私は思っています。この三年間で培ってきたものが、私たちを支え、どんなことにも立ち向かってゆける原動力となることでしょう。

いよいよ、お別れのとかが、近づいてきました。私たち、二二四名は今日、

新たな思いを胸に、吉岐高校を旅立ちます。今日この日を迎えるまでに、私たちは本当にたくさんの方々に支えていただきました。この三年間、学習面だけでなく、生活面についても多くのことを教えてくださって先生方。休日返上で授業をしてくださった先生や、夜遅くまで面接練習に付き合ってくださいました先生、親身になって相談にのり、力強い励ましの言葉をかけてくださった先生もいらっしやいました。嬉しいときは共に喜び、道を踏み外しそうになったときは、本気で叱って下さる先生方の存在があったからこそ、今の私たちがあるのだと思います。

そして、毎日朝早くからお弁当をつくり、送り迎えをしてくれた両親。素直な気持ちになかなか言えず、つい辛く当たってしまったこともありましたが、けれども、毎朝笑顔で「行ってらっしゃい」と声をかけてくれるたびに両親の愛情を感じずにはいられませんでした。これからも、ご心配をおかけすることが多々あると思いますが、どうか、私たちの成長を見守っていてください。

この三年間、苦楽を共にしてきた友達。三年間になり、より一層実感した「持つべきものは友」という言葉。受験前の不安な気持ちを和らげてくれたのは、共に頑張ってきた、友の励ましの言葉でした。これから一人一人、歩む道は違いますが、この吉岐高校での思い出が、私たちをずっと繋げていてくれることでしょう。

先生方、家族、友人、そして陰ながら支え続けてくださった、先輩方や地域の方々。この場を借りて言わせていただきます。本当にありがとうございます。

私はこの自然豊かな吉岐と、島の高台にそびえるこの吉岐高校が大好きです。これから吉岐を離れる人が多いと思いますが、私たちにとってのふるさととは吉岐であり続けます。吉岐を離れても、この吉岐の良さを忘れることなく過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、私たちの支えとなり、応援して下さいました皆様に重ねて感謝申し上げます。誇り高き我が母校の更なるご発展を心からお祈りし、答辞といたします。

平成二十二年三月一日

卒業生代表 平田 さくら